

学校だより

令和4年度 第7号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年9月30日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

前期の締め括り → 後期のスタートダッシュ！

校長 藤田 忠久

9月は、新型コロナ「第7波」や熱中症、台風の心配もしながらの 怒濤の1ヶ月間でした。再スタートに全力を注ぎ「校内初任者研修」の成果が見えてきた1年生、10月下旬からの新体制に向けて動き始めた2年生、11月の全校研究授業が控える3年生、…低学年は、長期(夏季)休業期間から学校生活への移行が、スムーズに行われたように思います。4年生も、コース別校外学習による「ふるさと学習」を進めたり、園芸委員会として台風に備えた「菊の移動」や「银杏拾い」の活動にも自主的に取り組んだりしました。そんな中、特に5、6年生は大変多忙な日々を送りました。

5年生は、2日に「うかいミュージアム」見学、8日に「長良川鵜飼」観覧、13日に「長良川体験活動(魚捕り・川流れ)、24日に「郡上あゆパーク研修」(日帰り「野外学習」)と、「清流・長良川」のテーマに向けた「ふるさと学習」を、五感を通して体験的に進めることができました。岐阜市内の長良川の魅力を、上流とも比較しながら学べたこと(郡上あゆパーク研修)は、after コロナでも続けていくべきではないかとも考えています。



6年生は、10月5、6日に「修学旅行」(白川郷・飛騨高山)に出かけるため、その準備や計画、事前学習への取組を、限られた時間の中で寸暇を惜しんで行っています。コロナの影響を受け、一昨年度は「日帰り修学旅行」として「高山研修」を行い、昨年度は感染症対策を徹底して「高山研修～宿泊～白川郷」という県内「修学旅行」を実施しました。いずれも「高山に観光客が多い理由を探ること」がメインテーマとなりました。それは今年度も変わらないのですが、「白川郷にも大きな意義をもたせたい」と考え、「白川村のミニ観光大使を務める白川郷学園6年生との『ふるさと学習』の交流や『合掌村ガイド』を通し『岐阜まちの観光』に対して岐阜小にできることを考えて発信する契機とする」目的を加えました。28日には白川郷学園6年生との「オンライン交流」を行い、顔合わせを行いました。来年度以降の「修学旅行」については検討を重ねていく必要があるのですが、「ふるさと学習」の集大成へと繋げる「観光地の探究活動」や「ふるさと自慢」を位置づけ、仲間づくりの目的も達成できる行事とする方向性は継続していきたいと思えます。



さらに、高学年は10月29日「運動会」に向けて動き出しています。本日(9/30)の「結団式」を執り行うために、団リーダーや児童会係が準備を進めました。そして、後期の始まる10/13からは「運動会」への本格的な取組が始まります。運動会は「児童一人一人が力と自信を付け、学級の凝集力を高め、感動を分かち合える学校」に向けた「体育を素材とした豊かな体験学習の場」と捉え、児童が明るく楽しく取り組むことを通して、「自分大好き」「仲間大好き」「学校(ふるさと)大好き」に迫る機会と考えています。願う子供の姿を「夢中になり思いきり“一人一人が楽しむ”低学年」「呼应しながら“仲間と協力する”中学年」「納得を追求して“岐阜小の運動会を創る”高学年」とし、競技や演技の種目を作り上げるのではなく、学年の子どもを創り上げていくのだという認識のもと、上記の3本柱と学年部の願う姿を、取組の中でどのように実現していくのか、しっかり主張できるように構想を練って臨むようにし、子供たちの生き生きとした姿と目の輝きで勝負する運動会を目指します。ご理解ご協力の程、よろしく願います。

学校だより

令和4年度 第6号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年8月30日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

CS, PTAを含めた「地域や家庭の教育力」を実感！ 夏休みの成長を自信に「家庭学習」の一層の充実を！

校長 藤田 忠久

学校閉庁期間前の7月を中心に8日間にわたり、3年ぶりに岐阜小コミュニティ・スクール「学び部」主催の「サマースクール」13講座が開催されました。「学び部」の企画・運営で、地域の方をはじめ岐阜市少年自然の家や岐阜かがみがはら航空宇宙博物館からも講師の先生を招かれ、素晴らしい学びの場が提供されました。「学び部」（地域や保護者）の皆さんや卒業生がサポートに回り、子供たちに喜びや楽しみを提供してくれている「サマースクール」は、岐阜小CSにとって大きな価値のある凄い事業に高まっていることを実感しています。



8月8日には、開校以来初となる「湊コミュニティ水路での鮎掴み大会」が、岐阜小PTAの主催で実施されました。「岐阜小学校区（金華地区）にある水路を子ども達が安全に親しめる水場として再利用したい」という願いを、岐阜市役所基盤整備部河川課が浚渫工事を快諾してくださり、保護者ボランティアによる清掃活動も行われて実現することができました。鮎掴み体験は学年ごとに行われ、岐阜大学院生による低・高別「鮎の生態」教室も位置付けられました。活動に加えて“学びの場”が準備されているところも大変誇らしく感じます。



地域の行事に目を向けると、金華地区では7月23、24日に正法寺「大佛フェスティバル」、8月14、15日には「伊奈波盆踊り大会」が行われました。いずれも3年ぶりの開催となったのですが、「伝統と文化」を守り「地域活性化」に努める金華地域の大人の本気を目の当たりにし、ボランティアスタッフとして活躍する中学生に憧れをもちながら、岐阜小の子供たちも大いに楽しむことができていました。京町地区では、7月24日と8月28日の朝、メディアコスモス「カオカオ広場」で「京町ラジオ体操大会」が開催されました。岐阜小児童もたくさん参加し、参加賞（お菓子）をもらって喜んでいました。子供たちのことを考え、地域が一体となって取り組む様子から多くのことを学んでくれたことと思います。



また、昨日持ち込まれた「夏休みの宝物」を見たり、「スタディサプリ」の取組状況を確認したりすると、自分で決めた課題をはじめとした学習にも、一生懸命取り組んだ子がたくさんいることが分かります。夏休みの期間にも、ご家庭の支えの中で力をつけ「一段と成長してくれた」と、大変嬉しく思います。「岐阜小 宿題なし」報道の反響は小さくありません。7/12 中日新聞夕刊の3ミリコント（ユーモアを交えて時事ネタを風刺）というコーナーに、名古屋・天草さんから「宿題なくした岐阜小の挑戦、問題はありません」という投稿があり、この作品が7月の月間賞に選ばれたという記事が8月上旬に載りました。ペンネーム天草さんが95歳というのも驚きでしたが、注目度の高さに身の引き締まる思いです。4月に予告した岐阜小学校「家庭学習の手引き」を夏休み中に作成しました。本日、全校児童に配布し学校HPにも掲載しましたので、この機会に改めて各ご家庭で「家庭学習」について話し合い、「自分で進んで学ぶ」決意を新たにさせていただけますと幸いです。

学校だより

令和4年度 第5号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年7月19日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

「自ら進んで楽しむ」夏休みに！

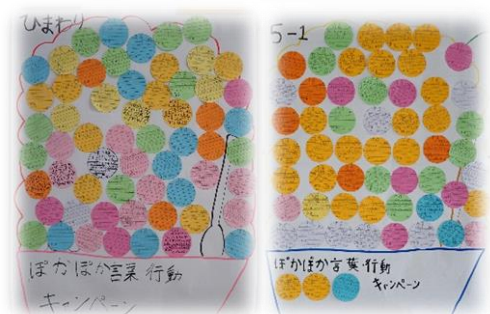
校長 藤田 忠久

4月に、今年度のキーワードは「自ら楽しむ」と紹介したのですが、夏休みも引き続き、この言葉を意識して過ごして欲しいと思っています。この「楽しむこと」について、責任感の強い頑張り屋ほど、他人を喜ばすための努力はしても、自分自身を楽しませるのが下手な傾向があるようです。「楽しむこと」＝「頑張っていないこと」と意味付けをしていると「楽しむこと」に、本来は不要な罪悪感をもちかねません。コンスタントに結果を出している人は、決して楽しみ下手ではありません。寧ろピンチの時ほど、ユーモアを見せて周りを安心させようとしたり、忙しい時でも心にゆとりがあったりし「この人素敵だなあ」と感じさせるものです。これは、常日頃から「自分を楽しませる」「好奇心」や「感性」を養っているからでしょう。人は平時にできないことは、非常時には尚更できません。楽しむことが下手な人は、その人のもつ「楽しむ」という意味に何かネガティブな印象をもっているのでしょうか。だからこそ「楽しむこと」に罪悪感もち、躊躇してしまうのです。

ところで「美味しいものを食べる」と「美味しく食べる」は違います。「似て非なること」と言ってよいでしょう。「美味しいものを食べる」は「美味しいもの」の存在が、自分の幸福を左右しています。極端に言えば「美味しいもの」の存在の有無が、自分を支配してしまいます。「美味しく食べる」は、その食べ物がどんなものであろうと、それには左右されていません。自分自身が食べものを支配するので、主体性を発揮できます。「楽しいことをする」と「楽しむ」も、実は「美味しいものを食べる」と「美味しく食べる」の関係と同じです。「楽しくない」と嘆いている者は、実は「楽しもうとしていない」だけなのではないでしょうか。

さて、自分で目標をつくり、その目標を達成するために計画を立て、計画に沿って実行するという「夏休み」は、主体性が問われる生活となります。「楽しいこと」を欲して受け身の姿勢でいるだけでは、「楽しい」と感じることはできません。「前向きに楽しむ」意志こそが、「楽しい夏休み」を創り出すのです。そして、「夏休み」の経験が、学校生活に生きることも期待したいと思います。

7月には、児童会主催「ほかほか言葉・行動キャンペーン」の取組により、カラフルな「かき氷」の掲示物が、それぞれの学年の周辺に多くでき上がりました。代表委員の呼びかけに、全校のみんなが応える「呼应」の具現を大変嬉しく思いました。○カード1枚1枚に目を向けると、いろいろなことが見えてきます。書かれた子の言葉や行動はもちろんですが、書いた子の資質や能力（「知識及び技能」「思考・判断・表現等」「学びに向かう力・人間性等」）を、見て取ることができます。カードの量や質から「こんなに意欲的に取り組むんだ」「こんなところに気付くんだ」「この子のことをそんなふうに見てたんだ」など、新たな気づきがたくさんありました。いじめが起きにくい風土を創り出すための「ほかほか言葉・行動キャンペーン」の成果を実感したのですが、この活動についても「自ら進んで楽しむ」気持ちで、お互いの良さを認め合う「連鎖反応」「好循環」「相乗効果」となり、「大きな宝物」へと繋がったのだと思います。



学校だより

令和4年度 第4号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年6月30日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

体験の重視の「ふるさと学習」充実！

校長 藤田 忠久

6月上旬の「金華山（山麓散策・コース別登山）」に続き、6月には「長良川（体験活動）」を各学年で行う学習として位置付けられないか？と、岐阜小学校のカリキュラム・マネジメントを考えています。岐阜市（岐阜まち）のシンボルとして、金華山と長良川は「ふるさと学習」には欠かせません。これまで「長良川」は、5年生のテーマとして学習を進めてきたのですが、ある学年だけで取り上げるのではなく、積み上げや積み重ねによって「より広く」「より深く」学ぶことができる素材だと思います。昨年度の「博報賞」副賞金で購入した箱メガネ60個、フローリングベスト95着の活用も始まりました。本日は、2年生の生活科の授業を全教員で参観し、教材化、単元構成、学習活動等について話し合います。どのような体験を、どのように仕組み、どのように伝え合うとよいのか、…今年度は“試行段階”とも言えますが、今後の方向性を明らかにしていきたいと思っています。



この「長良川での体験活動」を含め、6、7月には下の表のように「校外学習」の実施や計画をしました。今年、観測史上最短の「梅雨の期間」となりました。雨天の心配が薄らいだものの、猛暑による熱中症の不安が高まります。6月にも多くの保護者ボランティアの皆さんに見守っていただきましたが、7月にも引き続きよろしくお願ひします。

6、7月の「校外学習」（現段階の予定ですので変更や追加もあり得ます）

学年	期 日	行 き 先	活 動 等
1年	6/4 6/20	川原町公園・岐阜公園 金華橋下の川原	1, 2年生のペアで金華山の山麓散策・遊具等での遊び 石遊び(石積み、アートのための石集め)
2年	6/4 6/17, 20 7月上旬	川原町公園・岐阜公園 金華橋下の川原 金華橋下の川原	1, 2年生のペアで金華山の山麓散策・遊具等での遊び 自由な石遊び①(石投げ、石見つけ、石積み、基地づくり等) 自由な石遊び②(石投げ、石見つけ、石積み、基地づくり等)
3年	6/4 6/14 6/28 6/30 7/7, 12	金華山山頂 金華橋下の川原 金華橋下の川辺 川原町 正法寺 妙照寺	七曲りコースをみんなで登山 石投げ(水切り)、魚見つけ、石探し 水の中の生きもの観察 長良川デパート・CASAの見学 岐阜大仏の見学 妙照寺見学(俳句づくり)
4年	6/4 6/7 6/28	金華山山頂 金華橋下の川原 金華橋下の川辺	百曲りコースを班単位で登山 自由な石遊び(石投げ、石見つけ、石積み、基地づくり等) 水中観察、魚見つけ、魚捕り
5年	6/9 6/21 6/30 7/12	金華山山頂 長良橋北側川辺 金華橋下の川辺 金華橋下の川辺	瞑想の小径コースを班単位で登山 稚鮎の放流の見学 長良川の水質検査、カワゲラウォッチング 川流れ体験、魚捕り
6年	6/4 7/8	金華山山頂・三重の塔 テーマ別再取材地	馬の背コースを班単位で登山、三重の塔の解説を聞いて見学 5/30「麒麟が行っちゃった」研修の再取材(6ヶ所)

学校だより

令和4年度 第3号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年5月30日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

「対話・体験の重視」「教育DX」の推進

校長 藤田 忠久

今年度の岐阜地区最初の訪問校として、5月13日（金）に岐阜教育事務所と岐阜市教育委員会による合同の「人事管理訪問」が行われました。そこでは「子供たちの表情や反応がよく、安心して授業を受けている。新年度になって僅か1ヶ月程であっても、学び方に加えて学びの質の高まりを感じる。」「校長の経営方針が各学級の授業で具現化されていた。五感に働きかけることで、感覚的にも理解を深める工夫が為されており『体験重視』を実感した。」「学校経営方針として述べられた『対話』重視の授業が展開されていた。」「学校経営方針を受けた授業が展開され、子ども達の活躍の場が観られるように工夫されていた。」「タブレット端末をはじめICT機器も活用されている。先生の問い返しなども『深い学び』に繋げようとしていた。」など、嬉しい講評をいただきました。

5月27日には6年生が「岐阜まちの魅力」を再発見することを目的に、終日をかけて「麒麟が行っちゃった研修」と称したテーマ別グループ研修へと出かけました。今週の土曜日（6/4）にも全ての学年が、金華山「山麓散策」「コース別登山」に出かけ、「ふるさと学習」を展開します。この“体験”に確かな“学び”を加えて「適切な経験」へと高めていきたいと思えます。

一方、岐阜市は令和4年3月に「岐阜市 GIGA スクール推進計画」が策定されました。この計画は「デジタル・シティズンシップ教育」と「教育DX（デジタルトランスフォーメーション）」の考え方に基ついて創られています。ICTの進化により、社会・経済の構造が日々大きく変化する「大改革時代」が到来しています。私たちの社会や生活が、デジタル化により変化していく中、子供・教師・保護者・地域の人々が、同じ市民として「テクノロジーをうまく活用しながら、デジタル時代の良き市民として生きるには、どうしたらよいか？」を考える場を作ることが「デジタル・シティズンシップ教育」です。また、学校教育のDXとは、単に情報化やデジタル化をすることではなく、デジタルテクノロジーを活用して、学校教育そのものが変革することだと考えています。タブレット端末が、学校の中での「教具」という扱いから、社会的・日常的に「文具」として権限と責任をもって活用することになり、保護者の皆様のご理解とご協力が必要になってきます。

6月からは「すぐメール」に代わる連絡手段として「スマート連絡帳」を利用し、登校前の体温チェックや欠席等の連絡も、ご自身のスマートフォンなどで行っていただくこととなります。同じく6月より、動画講義の視聴もできることで、子供たちが主体的に学ぶこともできる教材「スタディ・サプリ」の利用も始まります。岐阜小学校においても「教育DX」を推進し、これらの効果的な活用に取り組んでいきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

既に岐阜小学校は、このような「体験重視」と「教育DX」の推進を象徴する活動にも取り組んでいます。5月24日の5年生の音楽の時間のことです。家庭の事情で担任が自宅待機となる中、予定していたリコーダーのテストを実施しました。感染症対策で歌唱や吹奏楽器の演奏に制限が加わる中ですが、子供たちは屋上に上がり、素晴らしい青空と見晴らしのもと、前半は各自がリコーダーの最終練習を重ね、後半はリコーダーで演奏する様子を個人用タブレット端末（iPad）にペアで録画し合い、Teamsの「課題提出」という形で「リコーダーテスト」を行ったのでした。担任は、自宅にいながら自分の個人用タブレット端末に送られてくる動画を観て、評価をすることができたのです。



学校だより

令和4年度 第2号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年4月28日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

学校のホームページ（HP）をお楽しみください

校長 藤田 忠久

4月19日（火）～22日（金）には、新年度早々の「個人懇談」にご来校いただき、誠にありがとうございました。その中で、学級担任から校長に「保護者の方から次のようなお話があった」と、報告がありましたので紹介いたします。

学校のHPを、とても楽しみにしています。毎日、いくつものブログ（記事と写真）がアップされているので、勤務先の休憩時間等にも楽しく見させてもらっています。帰宅後に、スマホで得た最新情報をもとに我が子に話題を振ると「えっ、どうしてそんなこと知っているの?」と驚いていますが、HPを通じて学校の様子がよく分かり、夕食時の団欒にも繋がって親子の会話が増えています。動画サイトにも飛んで、録画映像まで見られることも含めて、他の学校にお子さんが通っている同僚からも凄く羨ましがられています。

令和2年3月以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて緊急事態宣言等が繰り返されるなど、学校運営や教育活動を見直さなければならなくなりました。地域に「開かれた学校」を特長に掲げて教育活動を実践してきた岐阜小学校にとって「閉ざさなければならない」状況は、学校経営の根底を覆しかねない事態となったのです。そこで、放送集会としての生中継やビデオ放映、児童会（各委員会）による昼のTV放送等の「学校の教育活動」だけでなく、映像を駆使することは保護者や地域との交流という意味でも「学校を開くこと」に繋がらないかと考えました。学校HPでの写真画像の公開、「PTAでつくる岐阜小学校のページ」（動画サイト）へのVTRの提供など、静止画や動画の内容や利用方法を充実させることで、教育活動だけでなく情報発信の内容や方法をより活性化させようと心がけました。令和3年11月からはCMSサーバのクラウド化とセキュリティ向上を図る目的で市教委が管理している学校HPが新設され、そちらに移行されることになりました。それに伴って、1日1回を基本として更新していたHPを、学年別等のカテゴリーごとのブログとし、できるだけリアルタイムに複数回アップすることにしました。令和4年度が始業して以来、学校HPへのアクセス数は、初日（7日）の1,961回を皮切りに、全ての授業日で1,000回を超えています。「PTAでつくる岐阜小学校のページ」にも、4月には250人（1200回）以上のアクセスがありました。

学校に来られる回数が限定されている中、児童を中心とした「学校の様子を知る機会」となるように留意した結果が、上記のような嬉しい「声」としてお寄せいただけたり、アクセスの大きな「数」となって表れたりしていることは、本当に誇らしく感じています。

本日（4/28）の朝活動で行った「ようこそ1年生の会」でも、「入学式」に参加できなかった6年生が、自主的に集まった実行委員を中心にして、過去2年の「ようこそ1年生の会」をもとに、新たなシナリオを書いてアレンジ版の「歓迎セレモニー（寸劇）」を創り、そのTV放送を中心にして、見事に「児童集会」を成功させました。本日の学校HPに加えて、5月2日（月）には「PTAでつくる岐阜小学校のページ」（動画サイト）へもアップしていただく予定です。

これからも、映像を駆使した教育活動や情報発信にも努めていきますので、是非、お子さんと一緒に閲覧や視聴を楽しんでいってください。



学校だより

令和4年度 第1号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年4月8日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

進級・入学 おめでとうございます

～ after コロナ を見据えて「自ら楽しむ」令和4年度 ～

校長 藤田 忠久

岐阜小学校に赴任することになった4年前、当時の早川教育長から「再任用まで視野に入れて思う存分やってくれ」と発破をかけられ、令和元年度の「社会科全国大会」成功後には、その気になって「5ヶ年計画」を立てようとしたこともありました。しかし「新型コロナウイルス感染症」パンデミックによって、考えていたことは白紙に戻し、with コロナで「何ができるか?」「どうしたらできるか?」を考える日々となりました。この2年間は「学びと育ちを止めない」決意で学校経営や教育活動を進めてきましたが、どうしても「やりきった」という成気感はありませんでした。こうして再任用を希望し、岐阜小4年目の春を迎えました。岐阜小らしい『ふれあい』のできる「after コロナ」のときが来ることを信じ、引き続きお世話になります。どうか、よろしく願います。

さて、昨日は新たな仲間との学習や生活への決意と、進級の喜びに溢れる新年度の幕開けとなりました。テレビ放送による「始業式」後には、2～6年生の「学年開きの会」をもちました。どの学年の子たちも意欲を姿で表し、先生の話を食べるように聴いていました。新しい先生方への反応もよく、どの学年からも期待に満ちた様子が伝わってきました。午後からは入学式を行い、元気いっぱいの新1年生を職員で迎えました。緊張感の中でも、弾ける新1年生の笑顔から岐阜小学校での生活へのワクワク感が伝わってきました。

令和4年度は、新1年生の49人を加えて全校児童294人。ひまわりは増級して3学級、1～6年は2学級ずつの全15学級でスタートしました。教育目標『心豊かで自ら求め 学び合う 岐阜小の子ども』、合い言葉『ふるさと大好き』に向かって、児童と職員、総勢329人で「成長を実感できる岐阜小学校」を創っていきます。変わらぬご理解とご支援・ご協力を、どうぞお願いいたします。



始業式の「校長の話」でも子供たちに伝えたのですが、令和4年度のキーワードを「自ら楽しむ」としたいと思います。「楽しいことをする」と「楽しむ」は、似て非なるものです。すぐにできる「楽しいこと」をたくさん見つけて持っておくことも、気分転換やストレス耐性には大切です。が、それと同時に「楽しもう」とする心の余裕を養うことが「人生を楽しむ」態度につながります。これには、日常の中にある少し面倒なことでも「どうせやるなら楽しんでやろう」とする訓練の積み重ねが必要です。人は「楽しいこと」が起きるから「楽しい状態」になると考えがちですが、「楽しんでいる状態」になればこそ、自分の身の回りの出来事が「楽しくなる」のです。仕事や勉強が出来る人ほど心のゆとりがあり「楽しみ上手」です。ひよっとすると「心のゆとりを持とう」という意識的な努力で出来る人になり、周囲からは「あの人、いつも楽しそう」に見えるのかもしれませんが。

しばらくは「with コロナ」が続くことを、覚悟しなければなりません。だからこそ「自ら楽しむ」意識をもって、何事にも取り組んで欲しいと思います。令和4年度も「前向きに 直向きに」自分の生活や学習を「楽しむ」子どもたち一人一人であることを、心から願っています。